

第78回第一生命ホール音楽鑑賞会

端山貢明作品演奏会

ハ ヤマ コウ メイ

◎と き 昭和37年6月25日（月）午後7時開演

◎ところ 日比谷 第一生命ホール

◎入場券 A ￥450（指定席） B ￥350（自由席）

◎前 売 都内各プレイガイド店及第一生命ホール五階事務所 Tel (281) 9110

曲

目

1. 絃楽 トリオ

ヴァイオリン 川上久雄, ヴィオラ 平井光, チェロ 岩本忠生

2. ピアノ ソナタ

本莊玲子

3. 下手拓次の詩による歌曲集（初演）

歌 古沢淑子, ピアノ 井上二葉

4. オンド・マルトノ, クラヴサン, ヴィブラフォンの為のトリオ（初演）

本莊玲子, 竹前聡子, 有賀誠門

5. ヴィオラ 協奏曲 No.2（初演）

指揮 森 正

（ヴィオラと室内合奏の協奏曲）

ヴィオラ 平井 光

フリューート 小出信也, クラリネット 浜中浩一, アルト・サクソ 塚本
絃一郎, テナー・サクソ 村田宏, ホルン 山田桂三, トランペット 福井
功, トロンボーン 山口治, チェロ 藤本英雄, バス 中博昭

第78回第一生命ホール音楽鑑賞会

端山貢明作品演奏会

ハ ヤマ コウ メイ

◎と き 昭和37年6月25日(月)午後7時開演
◎ところ 日比谷 第一生命ホール
◎入場券 A ¥ 450 (指定席) B ¥ 350 (自由席)
◎前 売 都内各プレイガイド店及第一生命ホール五階事務所 Tel (281) 9110

曲 目

1. 絃楽 トリオ
ヴァイオリン 川上久雄, ヴィオラ 平井光, チェロ 岩本忠生
2. ピアノ ソナタ
本莊玲子
3. 下手拓次の詩による歌曲集 (初演)
歌 古沢淑子, ピアノ 井上二葉
4. オンド・マルトノ, クラヴサン, ヴィブラフォンの為のトリオ (初演)
本莊玲子, 竹前聡子, 有賀誠門
5. ヴィオラ 協奏曲 No.2 (初演) 指揮 森 正
(ヴィオラと室内合奏の協奏曲)
ヴィオラ 平井 光
フリュート 小出信也, クラリネット 浜中浩一, アルト・サクソ 塚本
絃一郎, テナー・サクソ 村田宏, ホルン 山田桂三, トランペット 福井
功, トロンボーン 山口治, チェロ 藤本英雄, バス 中博昭

端山貢明—1952年4月 芸大作曲科入学

1955年(昭和30年)12月 第10回文部省芸術祭文部大臣賞受賞

1956年3月 芸大作曲科卒業

1957年9月 フランス政府給費留学生として渡仏

1959年 帰国

フランス国立パリ音楽院にてオリヴィエ・メシアン、ノエル・ギャロンに師事。

又アンドレ・ジョリヴェ、ジャック・シャイエに学ぶ。

オンド・マルトノ—フランス人マルトノ氏により発明された、有鍵楽器で単音のみ奏せるが音色、奏法に特殊性があり、大きな表現力を持っている。フランスを初め各国の現代作曲家の多くの作曲がある。日本には N・H・K に一台あるのみである。

主催 第一生命ホール・朝日新聞厚生文化事業団

御 招 待 状

拝啓 ますます御清祥のことゝ御喜び申し上げます。

第78回 第一生命ホール音楽鑑賞会を下記の通り開催いたします。何卒御高評賜りたく御案内申し上げます。 敬 具

記

第78回 第一生命ホール音楽鑑賞会

端 山 貢 明 作 品 演 奏 会

日 時 昭和37年6月25日（月）午後7時 開演

ところ 日 比 谷 第 一 生 命 ホ ー ル

曲 目

1. 絃楽 トリオ ヴァイオリン 川上久雄, ヴィオラ 平井光, チェロ 岩本忠生
 2. ピアノ ソナタ 本荘玲子
 3. 大手拓次の詩による歌曲集（初演） 歌 古沢淑子, ピアノ 井上二葉
 4. オンド・マルトノ, クラヴサン, ヴィブラフォンの為のトリオ（初演） 本荘玲子, 竹前聰子, 有賀誠門
 5. ヴィオラ協奏曲 No. 2（初演） 指揮 森 正, ヴィオラ 平井 光
- フルート 小出信也, クラリネット 浜中浩一, アルト・サックス 塚本絃一郎, テナー・サックス 村田宏, ホルン 山田桂三, トランペット 福井功, トロンボーン 山口治, チェロ 藤本英雄, バス 中博昭

主催 第一生命ホール・朝日新聞厚生文化事業団

◎本状を受付にて招待券（座席指定）と御引換下さい。



78

第一生命ホール音楽鑑賞会

端山貢明作品演奏会

昭和37年 6 月25日<月>午後 7 時開演

主催

第一生命ホール

朝日新聞厚生文化事業団

第78回第一生命ホール音楽鑑賞会

CONCERT DES OEUVRES DE KOMEI HAYAMA

端山貢明作品演奏会

PROGRAMME

I TRIO POUR CORDES

Andante
Allegro
Sostenuto
Allegro assai
Violon H. KAWAKAMI
Alto K. HIRAI
V. Celle T. IWAMOTO

II SONATE POUR PIANO

Allegro assai
Lento
Allegro molto
REIKO HONSHO

III TROIS CHANTS

Après les poésies
d' OTÉ TAKUJI
Soprano YOSHIKO FURUZAWA
Piano FUTABA INOUE

IV TRIO POUR ONDE MARTENOT, CLAVECIN et VIBRAPHONE

Onde Martenot R. HONSHO
Clavecin S. TAKEMAE
Vibraphone M. ARIGA

V CONCERTO POUR ALTO

ET L' ORCHESTRE DE CHAMBRE

1.
2.
3.

Chef d' Orchestre TADASHI MORI
Alto KO HIRAI
Flute S.KOIDE Clarinette K. HAMANAKA
Alt.Sax. K. TSUKAMOTO Ten.Sax. H. MURATA
Cor K. YAMADA Tromp. K. FUKUI
Tromb. O. YAMAGUCHI V. Celle E. FUJIMOTO
C. Basse H.NAKA

I 絃楽トリオ (1960作曲)

アンダンテ
アレグロ
ソステヌート
アレグロ アサイ
ヴァイオリン 川 上 久 雄
ヴィオラ 平 井 光
チェロ 岩 本 忠 生

II ピアノ ソナタ (1960作曲)

アレグロ アサイ
レント
アレグロ モルト
本 莊 玲 子

III 大手拓次の詩による歌曲 (1960~62作曲)

のびてゆく不具
湿気の小馬
盲目の鶴
ソプラノ 古 沢 淑 子
ピアノ 井 上 二 葉

IV オンド・マルトノ、クラヴサン、ヴィ ブラフォンの為のトリオ (1961~62作曲)

オンド・マルトノ 本 莊 玲 子
クラヴサン 竹 前 聡 子
ヴィブラフォン 有 賀 誠 門

V ヴィオラ協奏曲 No.2 (1962作曲)

(ヴィオラと室内合奏のための協奏曲)

1.
2.
3.

指揮 森 正
ヴィオラ 平 井 光
フルーテ 小出信也 クラリネット 浜中浩一
アルト・サククス 塚本紘一郎 テナー・サククス
村田 宏 ホルン 山田桂三 トランペット 福井 功
トロンボーン 山口 治 チェロ 藤本英雄 バス
中 博昭

若い人の作品に関しては、私は、それらが現代音楽の中にどのような在り方を示しているか、そのような観点から批判する。

流行をただ追っているように思われる作品がかなり多数ある。才能の貧困がそれぞれの自己を失わしめているからであろう。

端山君は、ときにはかたくなと思われるほど自己を守る。それに対して、十年以上になる私との交渉の間、不愉快に感じたことがあったが、今では頼もしく思えることもある。

今回の作品演奏会は、端山君の現在の全貌をそのまま見せるものである。ただの流行を追う作曲家ではないことが十分に実証されることを固く信ずるのである。

お祝いに代えて

野呂信次郎

端山君が自作品の発表会を開き度いといっぺこられた。きけば1959年フランスから帰って初の発表会であるとの事。おめでとう！ 彼は芸大在学中1952年第10回芸術祭文部大臣賞を受けているからその時分から優れた天分の持主であった事は証明済みだ。卒業後フランス給費生となりパリ・コンセルバトアールに入学、メシアン、ジョリヴェ、ギャロン等の大家に師事しており、帰国してからは1、2の作品を発表したことはあるが、元来寡作の人であり、流行に乗り器用に作りまくる人ではないから、彼の作品は世俗にも汚れず、何かシンが一本通ったものがある。今度の発表会は今迄の総決算と見ていいわけである。幸い恩師メシアンがN響のまねきで来日し、彼にお祝いのメッセージをよこして、演奏会にも来場する由、又とない機会であるから、彼の作品上での成長ぶりを目で、否耳でしっかりと確認してもらうことだ。

端山のこゝと

三善晃

旧年制高校の記念祭、オーバ下駄にマントというこわい連中が一ぱいつまった構堂舞台に尋常二年生の背広姿数人が登場、ギタ、ウクレレをひっかきながらウラ声でハワイ音楽を歌い始めたら場内たちまち、ものすごい怒声で満ちた。すごい吊るし上げをくったがその時ただ一人、彼等を弁護した先輩がいた。皆川達夫さん、当時すでに「ヘンデル」の著者として神の如き存在だった。

神に救われて事なきを得たのが端山を御大にいただく僕たち数人のグループで、それ以後、体育館うらの陽当りのいい部屋に巣喰って「芸術研究会」という看板を出した。

芸術の一、窓を水平に倒して水を張り、オタマジャクンを育てること。その二、朝のうちに空^{から}にした弁当箱に小石を入れて振りまわす etc ……。面白半分にダンスパーティを開いたら本当に楽団と客がきてしまい、客に売るアイスクリームを仕入れに柿の木坂をお鉢小脇に何回も往復しなければならなかった。あの時の赤字と会の一年分の予算がほぼ同額だった。

以上すべて指導者は端山、その彼が芸大作曲科、芸術祭文部大臣賞、パリ留学と正規の道を着々進んで、フランスで再会した時は同伴の奥方というのが僕の実の姉で……この辺は全く芸術的に事が運んでいる。

放送で彼の絃楽三重奏を聴き、ピアノソナタの譜を見せて貰った。対位法とリズム構成が精緻で見事だった。この様な技法が勝っていると音楽は難解で冷たい印象を与えるものだが、端山の音楽は本質的には非常にリリックだと思った。厳しい線的な音構成の底に彼の愛、彼の歌が流れている。底に——つまり彼は、あからさまに自己表出しない。音楽は先ず彼の内側に向いており、彼の手で強引な表現や表面的な艶をすべてけづり取られてから聴き手を包容しにやってくる。

この様な自己対峙の姿勢から端山はいわば古典的な整いを追求しているのだろう。安易な方法や発明に走ることを決してしないのは、彼が、その追求の途上でヒューマンなものを一度も手離さなかったからだと思う。

それは同時に、この姿勢のもつ、独断やニヒルにおち入る危険からも彼を完全に守るものであるにちがいない。

色々なジャンルの曲を今回一度に聴けるのが楽しみだ。端山の場合、彼の好みが各曲に分裂して現われることはないだろう。





親愛な友

貴方に日本で再び合える事は、どれほど私を喜ばせ、感激させているかを読みとって下さい。

貴方が今度作品の演奏会をする事を知り、音楽会が大成功をおさめるように祈ります。貴方の豊かな天分・勉強・才能にふさわしい成功を！

オリヴィエ・メシアン

Olivier Messiaen

作曲者のことば

端山貢明

私にも音楽を本当によく勉強しようと思いついた時があった。音楽家になる野心によってではなく音楽の城と言うものが若しあるならばその内側にいたかったのだ。

そのため梶原完氏の紹介で池内先生の門をたたいた。それが確か18才のころだったから、作曲に関して大変晩学と言うことになるだろう。

私は生来小器用に生れついて居ない。だから生涯の最良の師である池内先生にも、滞仏中の短い期間だったが、私の音楽の根底にもう一度大きな礎石を決定的に礎え直してくれたメシアンにもジョリヴェにも結局表面的には私の作風は全く似ていないものになってしまった。芸大時代仲間のうちで流行ったラヴェル風にもドビッシイ風にも又、バトーク風にもならなかった。試みても多分出来なかった事なのだろうが結果として私自身の妙なくせのある作風が出来てしまった事を似なくて良かった等と言う思い上がった考えでなく、良かったのではないかと思っている。

私の作曲の基本的な態度の中には池内先生の常に言われる“変応”^{ミユタシオン}の考えに影響されている所が実に大きい。もちろん先生が私に初めて言われた時のそれとその後私自身の解釈で勝手に発展させて作り上げた私自身の言わば“変応”^{ミユタシオン}の技法は実は非常にへだたりのあるものに違いないが今でも作曲中は常にこの言葉の照射を受けている。

私の場合音楽は絵巻物のように一つ一つの異った時間に属する場面を充しながら進んで行く。非常に静的な物のような気がする。それはインドから西に多い一つのカードルの中を異る時間に属する素材で構成する方法とは大部違っているように思う。それはローマ皇帝達の記念碑の浮彫のようにではなく、延々90万にもおよぶタピスリーの話の流れるようにでもなく、それは日本の絵巻物のように偶然の空間のように見えて実は大きく普遍につながっている一つ一つの場面を充しながら進んで行く（私は日本の芸術に顕著なこの特性を愛している）。

技術とか技法とか言うとは日本では多くの場合生命のない形骸を意味する。また事実その具体的な例に事欠かない。だから私はヨーロッパでも現代は、特にアカデミックな技法は形骸になり果てていると思い込んでいた。私はヨーロッパに既製のものを受け入れるために行ったのではなかった。またヨーロッパの文明を日本に移植するためでもなかった。ましてこの皮相の技術を学びに行ったのではなかった。ところが私がそこで見出したものは信仰にも似た強さで受けつがれて来た伝統だった。そこでは技法は精神の代行をしていた。それは音楽がすべてを委ねて安んじていられる安定した秩序だった。円柱を束ねたゴシックの柱のように何でも無いような顔をしながらヨーロッパ世界がその上に乗っていた。それを肯定するにしても否定するにしてもそこからどうしても始めなければならない大きな前呈だった。

私には（多分私達には）それが無かった。それを受け入れるためには私が生れて以来貪欲にまた無理強いされて取り入れ、私の中に一つの国を作ってしまった多くの知識以外に更にそれと同じ量の知識が必要だった。そして私はそれも持っていなかった。この事は当然ながら私の目を自分の内側にも向けさせる事になった。

私は何時でも模索している。しかし振り返って見るとその足跡が案外すじ道立っていてせめて私を安堵させる。

私の中で音楽はある時は自信、ある時はたよりなく、私に何か要求している。私はこうして私なりに作曲を続けて行くことだろう。

今度第一生命ホールの援助により色々な作品を一度に発表する機会を持てた事を心から感謝している。この演奏会が直接私に教える物にも期待しているが今日私の作品を聴いて下さった方々から、色々お教え頂く事が出来ればまたこの上ない幸である。

曲 目 解 説

この曲は、日本音楽家クラブの委嘱により1960年の夏2カ月位かかって作曲した。帰国後始めて発表した曲である。この時私は、ヨーロッパで学んだものを一応頭の奥の方にしまい込んで私が、ともかく自分で音楽を書き始めた地点まで立ち戻って作曲した。

ピアノソナタ 1960作曲

ここでは（特に第1楽章で）単位が自壊してしまうまで加熱し、ふりまわして見たのだが、この作法のほか主題的な働きをする要素も用いた。これはいわば混乱なのだがこの曲ではそれがきずにはなっていないように思う。私はこの曲が大変気に入っている。

"ことばは、空のなかをかけりゆく香料のひびきである"。そして "ゆめと生命とをあざなはせて、ゆるやかにけぶりながらまっしろいほのほの肌をあらわに魂のうへにおほひかぶせるふしぎのいきものである"。そして "ことばはたましひのそよかぜのながれである"。

内心の恐れや小さな喜びを形を変えたものに托し、ある時は、ことばを鈴のように転ばせて、ある時は戦きながら、ある時は物憂さ晴しにそれもまったく他人のためにではなく、ただ自分のために書いているような気がする。詩人としての意志もなく新しい物を創造する野心も無く最も詩人らしくない、詩人もしくはわ、最も詩人らしい詩人として創作していたに違いない。彼ほど胸をうつ深い作品のそばに目をそらさせるような寂しい作品のある詩人も少い。

今度、私なりに好きな詩をとって作曲した。ピアノ以上に歌曲は私を恐れさせる。大手拓次のとくに音楽的な詩がそれに輪をかける。五線紙からはなれて、活字の詩を見るたびに新鮮な情感がよみがえると言う事態を恐れながら、作曲した。歌もピアノも詩に対して静かに、ひかえ目に、曲目に幾分激しい動きもあるが考えは同じである。

この曲は始め、多楽章の長い曲の最後に予定していたものだが、作曲を進めている内に、この特殊な形式の楽章が、それ自体で完結してしまい、他の楽章をうけつけなくなっているのに気がついた。私にとって多楽章形式を考えなおさせる重大な体験だった。

ヴィオラ協奏曲（ヴィオラと室内合奏のための協奏曲） 1962作曲

そしてこの既製のシステムティックな技法を用いなくて作曲する事が、実に難しいものである事をあらためて知った。



端山貢明略歴

1932年4月28日 東京生れ 誠之小学校 東京都立高等学校尋常科高等科（学制改革により都立大学付属校となる）を経て

1952年東京芸術大学作曲科入学

1952年第10回芸術祭文部大臣賞受賞

1956年東京芸術大学作曲科卒業

1957年フランス政府給費留学生として渡仏

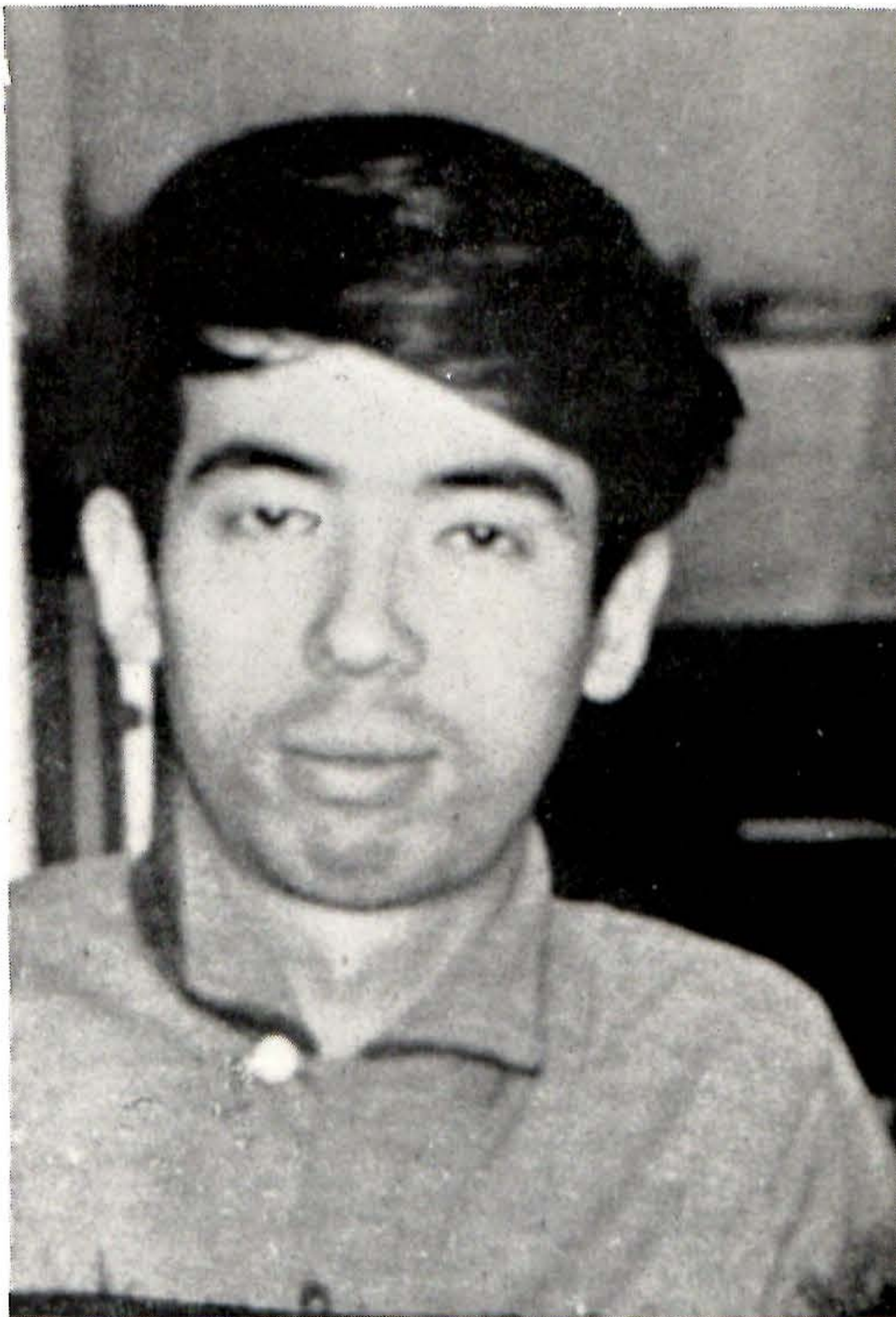
1959年学業をおえ帰国

○1949年より池内友次郎に師事芸大在学中も変わらず現在に致る

○ パリ国立音楽院にてオリヴィエ・メシアン、ノエル・ギャロンに師事

○ 個人的に在パリ中、アントレ・ジョリヴェ、ジャック・シャイエに師事

○ ピアノ安川加寿子、指揮渡辺暁雄、ヴィオラ井上武雄にそれぞれ師事



~~~~~ ○ ~~~~~  
ヴィオラ 平井光 1933年東京生、昭和32年芸大卒。1961年3月第1回リサイタルを第一生命ホールに開催、(N響団員)

フルー ト 小出信也 (N響団員) クラリネット 浜中浩一 (N響団員)

アルト・サックス 塚本紘一郎 芸大4年在学中、第30回音楽コンクール入賞、坂口新に師事

テナー・サックス 村田宏 昭和37年芸大卒、坂口新に師事

ホルン 山田桂三 (N響団員) トランペット 福井功 (N響団員) トロンボーン 山口治 (N響団員)

チェロ 藤本英雄 (N響団員) バス 中博昭 (N響団員)

~~~~~ 以上 マネージメント 平井成子 ~~~~~

国

際 P R
山口ビューロー

港区麻布龍土町
電(四〇八)六〇九六

株式会社
河合楽器製作所

五反田営業所 (491) 八七二二

ピアノ・オルガン
カワイ

音をつくり
音を育て

音をひろめる……

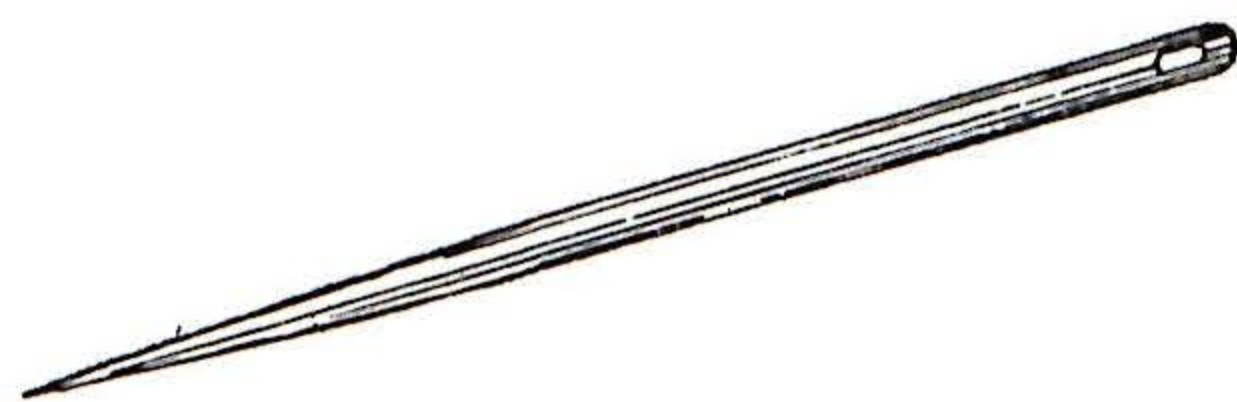


ORGAIN 14



世界の愛用品!!
あなたの愛用品!!

オルガンミシン針は三十年の優秀技術の経験の上に湿度の少ない静かな環境において造られた使い良いミシン針です。世界の津々浦々の皆様から御愛用を載いております。オルガンミシン針は一本毎に責任と信用あるORGAINの刻印があります。いつでも安心してお使い下さい。



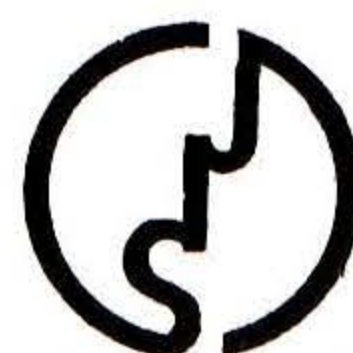
オルガンメリケン針

オルガンメリケン針はミシン針と同様材質も特殊に選ばれたものを優れた技術の上に造られた使い良い針です。安心してお使いになれば縫上りを一層良く致します。

オルガン

手 編 機 針
ボ ビ ン
ミ シ ン 油

オルガンミシン針



許可番号 1384





78

第一生命ホール音楽鑑賞会

端山貢明作品演奏会

昭和37年 6 月25日<月>午後 7 時開演

主催

第一生命ホール

朝日新聞厚生文化事業団